

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

				No.	12-004		
PDCA	事務事業名	半田運河活性化推進事業	部課等名	市民経済部観光課	担当 内線等		
					渋谷 327		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章：第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節：第1節 観光・産業の振興					
		基本施策：1. 観光					
		単位施策：(1) 観光資源の活用					
根拠法令等		個別施策：①観光資源の充実					
対象・目的		半田運河の景観や醸造の歴史・文化を活かしたイベントを充実させ、年間を通じて賑わいの創出を図る。					
目的を達成するための手段・活動内容		HOTORIイベント（brunch、SAKABA）やCanal Night、萬三の白モッコウバラ祭等の半田運河の景観や歴史・文化を活かしたイベントを実施し、半田運河をPRするとともに誘客を図る。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①半田運河HOTORI brunch来場者数		6,000	6,100	4,000	人
		②半田運河HOTORI SAKABA来場者数		3,400	7,500	0	人
		③半田運河HOTORI brunch 1回開催あたり平均出店数		27	32	21	店
		事業費		13,566	17,554	3,937	千円
		人件費		7,495	7,452	5,863	千円
		総事業費		21,061	25,006	9,800	千円
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位
	①半田運河周辺観光入込客数 1人当たりの事業費		78	62	85	円	
	成 果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①半田運河周辺年間観光入込客数	実績値	270	402	115	千人
			目標値	270	430	430	
			実績値				
			目標値				
		実績値					
		目標値					
C 課題の整理		観点別評価	必要性		有効性		効率性
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の評価・課題	D					
		令和元年度冬から引き続いて、新型コロナウイルスの影響によるイベント中止や、観光施設等の休館により、半田運河周辺観光入込客数は大幅に減少した。その一方で、3密を回避できるイベントとして、半田運河HOTORI brunchを2回実施し、コロナ禍においてもできる限りの運河周辺の魅力の発信と楽しさを提供した。また、半田運河の認知度向上を目指して、名古屋市内イベント（なやばし夜イチ）に出展し、魅力を発信することができた。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進					
		来場者の集中が見込まれるイベント（HOTORI SAKABA、Canal Night等）については、今年度も新型コロナウイルス感染症が収束するまでは開催が容易ではないが、積極的な情報発信による認知度の向上を図りながら、時代に沿った誘客方法を検討し、半田運河の日常的なにぎわいの創出を図っていく。					
	令和3年度の目標	成果指標			目標値	単位	
		①半田運河周辺観光入込客数（新型コロナウイルスの影響がない場合）			430	千人	